

事例紹介

地域の避難所としての機能を構築する

事業所名称	奄美高校	施設概要	パネル：10kW パワコン： kW 蓄電池：16kWh
施設名	奄美高校	電力用途	平常時：学校の電力として使用 停電時：体育館（避難所）の電源として使用
所在地	奄美市名瀬古田町	発電開始	令和3年5月

取組のきっかけ	地産地消エネルギーの活用及び災害時（BCP）対策として取り組んだ。
事業の取組方法	自家消費用として太陽光発電設備及び蓄電池を整備した。 太陽光パネルは校舎の屋上に設置している。 売電契約及びFIT契約はしていない。（買電：九州電力）
事業の成果	電気代（使用料そのもの）が抑えられるとともに、ピークカットでデマンド（蓄電池を活用したデマンド監視）が抑えられる。 停電時も電力が使用できる。
課題	電気保安料が高くなった。
今後の展開	設置場所はあるが、具体的な計画はない（不明）。

年間増収効果

約25万円
（発電電力から推計）

年間CO2削減量

5.79トン

注目ポイント

- ・ エネルギーの地産地消のための補助金を利用
- ・ 学校の教材としての活用も



太陽光パネルを
校舎屋上に設置